

テーマ：居場所づくりによる人間性の向上

大学の役割について

私たちは、大学の役割について「学生の視点から見た大学の役割」と「社会の視点から見た大学の役割」について考えた。

① 学生の視点に立った大学の役割とは

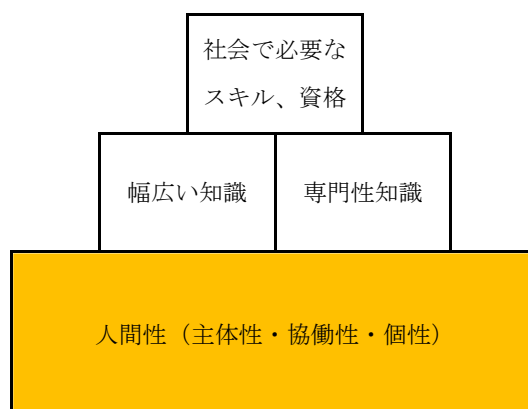
- ・やりたいことに挑戦できる場所（スポーツ、旅行、留学、ボランティア等）
- ・将来やりたいことを見つける場所
- ・働くまでの猶予期間
- ・学びたい学問を学べる場所
- ・学位を取得するための場所

② 社会の視点に立った大学の役割とは

- ・卒業生の質の保証
- ・社会人基礎力及び人間性を兼ね備えた人材の育成
- ・教養、専門性知識を兼ね備えた人材の育成
- ・グローバル化社会に対応できる人材の育成
- ・変化に柔軟に対応できる人材の育成 等

上記からわかるように学生の視点と、社会の視点では大学の役割に大きなギャップがあることがわかる。この二つの視点から、総合的な大学の役割とは、学生に主体的な活動や学びの場（機会）を提供し、また、将来の目標を明確にさせ、②の力をつけさせて社会に輩出することが求められていると考えられる。しかし、昨今は明確な目標を持たないまま大学に入学する学生がほとんどであり、大学での主体的な活動、学びになじめない学生が多い。また、大学では多様な人との人間関係を自力で構築していかなければならず、今までの受け身の姿勢を一遍させて、高い人間性を発揮し自分の居場所を作っていかなければならない。昨今では、人間性をうまく発揮できず孤立して退学してしまう学生も多いように感じる。

このように大学が置かれている状況から、私たちは上記に挙げた大学の役割を果たすためには、大学は右記の様に、基盤となる人間性（主体性・協働性・個性）を高める取り組みが必要なのではないかと考えた。



大学のイノベーションの提案

では、学生の「人間性」を高めるために大学ができることは何であろうか。リベラルアーツ教育やアクティブラーニングもその一つかもしれないが、私たちは自身の経験から、何かしらの組織に属して活動することでより高い人間性も身につけることができるのではないかという結論に至った。その理由は、他者と関わらざる得ない環境に身を置くことで、自分が何をしなければいけないかを考えて主体的に行動し、また他者と協力して物事を実行する重要さを学ぶことができる。さらにその集団の中で自分の得意分野を見つけ、どんな役割が自分には合っているのかといった個性の気づきにもつながる。

そのために大学がすべきことは、学内外を問わず多種多様な活動組織の情報を収集し、学生に提供することである。そのための具体的な提案として「活動イベントの総合案内窓口」を作り、学生に情報を提供する。また、旅行情報サイトの様なカテゴリー別に分かれた活動閲覧サイトを作り、多様なタイプの活動状況を閲覧できたり、参加申し込みできたりするような仕組みを作る。

これらは人間性を高めるだけでなく、大学という自立主義の環境になじめない学生についても、組織に所属することで同じ興味を持つ人々との出会いを後押しすることができ、結果的には、大学になじめずに退学してしまう者の減少にもつながる。

提案の課題

上記提案の運用にあたってはまだ課題はある。まずは高いコミュニケーションスキルを有した窓口スタッフの必要性だ。前述したように大学に入学する学生は、自分のやりたいことが明確でない者がほとんどである。そのような学生の興味の糸口を見出すようなカウンセリングができ、的確なアドバイスを提供できるスタッフが必要である。

また、組織に所属することで人間関係のトラブルや、依存した人間関係を構築してしまう可能性もある。特に学外の活動の場合、カウンセリングやフォローアップはどのように行えばよいかということも課題である。

最後に、活動に参加するのは学生次第で、学生の自主性がなければこの取り組みも意味がなくなってしまう。

まとめ

今回、「居場所づくりによる人間性の向上」をテーマに発表したのが、上記で論じたのは話し合いの中で出た提案のほんの一部であり、他にも様々なユニークな取り組みの提案が出された。今回の一番の成果は、実現の可能性の有無にかかわらず自由な発想でどの様な取り組みが学生にとってより良い学び、学生生活につながるかについてディスカッションできたことである。今後も、常に広い視野を持ち、日々の業務に取り組んでいきたい。

以上